

「平成21年度全国学力・学習状況調査」

津市の調査結果報告

津市教育委員会

目 次

I	調査の概要	2
1	調査の内容	
	(1) 調査の目的	
	(2) 調査の期日	
	(3) 調査参加人数	
	(4) 調査事項	
2	調査結果の活用についての基本的な考え方	
II	教科に関する調査結果	
	<u>小学校</u>	3
1	国語 A	
2	国語 B	
3	算数 A	
4	算数 B	
	<u>中学校</u>	5
1	国語 A	
2	国語 B	
3	数学 A	
4	数学 B	

Ⅰ 調査の概要

1 調査の内容

(1) 調査の目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の期日 平成 21 年 4 月 21 日 (火)

(3) 調査参加人数

- ア 小学校第 6 学年児童 2, 4 6 9 人
- イ 中学校第 3 学年生徒 2, 3 7 7 人

(4) 調査事項

ア 教科に関する調査

(国語 A、算数・数学 A)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など(主として「知識」に関する問題)を中心とした出題。

(国語 B、算数・数学 B)

- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実施し評価・改善する力などにかかわる内容など(主として「活用」に関する問題)を中心とした出題。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査。

2 調査結果の活用についての基本的な考え方

- (1) 本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であることや、学校の教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえるとともに、児童生徒・学校の序列化や過度の競争につながらないように十分配慮して取り扱う。
- (2) 教育委員会・各学校は、調査の結果を分析し、本年度調査を受けた児童生徒に対して、補充学習などを含めて、課題に応じてきめ細かく対応するとともに、教育活動の成果や課題等を把握・検証し改善を図る。

II 教科に関する調査結果

小 学 校

1 国語 A

国語 A の平均正答率は、全国より低く、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られます。

- (1) 「話すこと・聞くこと」については、平均正答率は、4 領域の中では低く、全国より低い結果となっています。
- (2) 「書くこと」については、平均正答率は、4 領域の中では高く、全国より少し低い結果となっています。文章の内容に合わせて、小見出しを書くことはできません。
- (3) 「読むこと」については、平均正答率は、全国より少し低い結果となっています。段落の内容を的確にとらえることはできます。
- (4) 「言語事項」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。漢字を正しく読むことはよくできます。漢字を正しく書くこともできます。文の意味を考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことや、文字の大きさや配列に注意して書くことが求められています。

2 国語 B

国語 B の平均正答率は、全国より低く、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題があります。

- (1) 「話すこと・聞くこと」については、平均正答率は、4 領域の中では高く、全国とほぼ同じ結果となっています。目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出すことはできます。自分の立場や意図を明確にして話し合うことが求められています。
- (2) 「書くこと」については、平均正答率は、4 領域の中では低く、全国とほぼ同じ結果となっています。調べる内容を見通して、必要な事柄を整理することや、目的や意図に応じて、事象や意見などを関連付けながら書くことが求められています。
- (3) 「読むこと」については、平均正答率は、全国より少し低い結果となっています。目的や意図に応じて、自分の考えをまとめることが求められています。
- (4) 「言語事項」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。目的や意図が伝わるように話の組立てを工夫しながら説明することができます。

3 算数A

算数Aの平均正答率は、全国より低く、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要があります。

- (1) 「数と計算」については、平均正答率は、4領域の中では高く、全国より少し低い結果となっています。基本的な計算をすることはできます。数直線から数を読み取ることや、数の意味について理解することが求められています。
- (2) 「量と測定」については、平均正答率は、全国より低い結果となっています。長さについての感覚を身につけています。面積を求める式を書くことが求められています。
- (3) 「図形」については、平均正答率は、全国より低い結果となっています。平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいという性質を理解しています。四角形の4つの角の大きさの和の求め方を理解することが求められています。
- (4) 「数量関係」については、平均正答率は、4領域の中では低く、全国よりほぼ同じ結果となっています。資料を分類整理し、表を用いて表すことはできますが、百分率を求めることが求められています。

4 算数B

算数Bの平均正答率は、全国より低く、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題があります。

- (1) 「数と計算」については、平均正答率は、4領域の中では低く、全国とほぼ同じ結果となっています。整数と小数の加法を用いて、重さを求めることはできません。情報を整理選択し、筋道立てて考え、示された判断が正しい理由を記述することが求められています。
- (2) 「量と測定」については、平均正答率は、4領域の中では高く、全国とほぼ同じ結果となっています。与えられた条件に合う時刻を、筋道立てて考え、時刻表から選択することが求められています。
- (3) 「図形」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。カードの敷き詰め方を2通りかき、必要なカードの枚数を求めることはできます。示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを記述することが求められています。
- (4) 「数量関係」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。グラフから必要な数量を読み取ることや、グラフの特徴を基に、数量の変化の様子をとらえることはできます。基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述することが求められています。

中 学 校

1 国語A

国語Aの平均正答率は、全国より少し高く、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要があります。

- (1) 「話すこと・聞くこと」については、平均正答率は、4領域の中では高く、全国とほぼ同じ結果となっています。話の内容から必要な情報を的確に聞き取ることや、聞いた話の中に必要な情報が含まれているかを判断し、適切に質問することはできます。
- (2) 「書くこと」については、平均正答率は、4領域の中では低く、全国とほぼ同じ結果となっています。自分の意見を伝えるために、適切な材料を選ぶことができます。主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くことが求められています。
- (3) 「読むこと」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。本文の展開に即して内容をとらえることはできます。短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむことが求められています。
- (4) 「言語事項」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。文脈に即して漢字を正しく読むことはよくできます。

2 国語B

国語Bの平均正答率は全国とほぼ同じであり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力を更に身に付けさせる必要があります。

- (1) 「話すこと・聞くこと」については、該当する問題がありませんでした。
- (2) 「書くこと」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを判断することや、詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書くことはできます。資料に表れている工夫を自分の表現に役立てることが求められています。
- (3) 「読むこと」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。語句に注意し、その効果的な使い方に気付くことはできます。
- (4) 「言語事項」については、該当する問題がありませんでした。

3 数学A

数学Aの平均正答率は全国より少し高いが、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られます。

- (1) 「数と式」については、平均正答率は、3領域の中では高く、全国とほぼ同じ結果となっています。()を含む正の数と負の数の計算をすることや、比の意味を理解することはできます。一元一次方程式をつくるために2通りに表せる数量に着目することや、具体的な場面で、等式を目的に応じて変形することが求められています。
- (2) 「図形」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。展開図で示された空間図形について2つの面の位置関係をとらえることや、直角三角形の一辺を軸とする回転によって円錐が構成されることを理解することや、三角形の合同の証明に必要な辺や角の相等関係を指摘することはできます。証明の意義、同位角の意味、作図と線分の垂直二等分線について理解することが求められています。
- (3) 「数量関係」については、平均正答率は3領域の中では低く、全国とほぼ同じ結果となっています。不確定な事象の起こり得る程度を、確率の意味にもとづいて割合で比較できることを理解することはできます。二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解することや、反比例を表した事象を選んだり、反比例の表から式を求めたりすることが求められています。

4 数学B

数学Bの平均正答率は全国より少し高いが、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題があります。

- (1) 「数と式」については、平均正答率は、3領域の中では高く、全国とほぼ同じ結果となっています。問題場面における考察の対象を明確にとらえることはできません。筋道立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明することが求められています。
- (2) 「図形」については、平均正答率は、全国とほぼ同じ結果となっています。事象を図形に着目して観察し、その特徴を的確にとらえることはできません。方針にもとづいて証明することが求められています。
- (3) 「数量関係」については、平均正答率は、3領域の中では低く、全国とほぼ同じ結果となっています。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することが求められています。